

安来高新聞



発行所：安来高校新聞部
〒692-0031
島根県安来市佐久保町115
TEL：(0854) 22-2840
FAX：(0854) 22-3612

総体特集

勝利を目指し善戦

バレーボール・フェンシング
男女そろってインターハイへ!!



金築選手 接戦を征す

大熱戦
フェンシング男子団体
6月3～4日
広瀬中央公園総合体育館

大会初日に男子団体戦は松江工業との戦いを5-4の接戦で制し、インターハイの出場権を獲得した。金築元喜さん(2年)は、団体戦でのモチベーションについて「勝つつもりで戦った。団体での3試

合目では、チームが劣勢だったので自分が引張るつもりで切り替えて戦った」と話した。団体戦で最後にアタックを決めた藤原圭汰さん(2年)は最終戦について「プレッシャーは大きかったが、最後のポイントでは自分の中で勝ちを確信していた」と堂々と話した。顧問の永井宏尚先生は「2年生の藤原成亜の勝利からのスタートでリズムに乗れたと思ったが試合はもつれ、4勝4敗で最後の9試合目も4対4の一本勝負になった。最後に藤原圭汰がアタックを決め、何とか男女揃ってインターハイの出場権を得た」と安堵の表情で語った。また、インターハイや国体に出場する3年生に向けて「進路に向けての体制に入るので、勉強と部活動の両立を

しなければならぬ。今まで試合や練習で培った経験を今後の生活や勉強にも生かしてほしい。今しか出来ない自分たちにしか出来ない経験を積ませたい。」と話した。(真)



スパイクを打つ大西選手(2年)

バレーボール部
3年ぶりの
男女ダブル優勝
6月2～4日
島根県立体育館他

「優勝出来て嬉しい。去年より、一回り成長することが出来たと思う。キャプテンがチームをまとめてくれ、チームワークも良かった」と話した。

2面へ続く

決勝	
男子	女子
25 22 松江工業	25 17 大社
25 19	25 18

男女バレーボール部は共に優勝し、夏のインターハイへの出場権を得た。女子バレー部は去年、大社高校に接戦の末、惜しくも敗退したが、今回の試合は1セットも取られることなく圧勝した。キャプテンの竹崎恭子さん(3年)は「去年の悔しさを取り返すつもりで練習してきた。良いムードが出来た。焦らず、しっかりと力を出す事が出来、自分たちが思っていたプレーが出来て良かった」と話し、監督の岩田将太郎先生は「優勝出来て嬉しい。去年より、一回り成長することが出来たと思う。キャプテンがチームをまとめてくれ、チームワークも良かった」と話した。

佐久保発

違法行為とスポーツマン

一般人や芸能人などが違法賭博や覚醒剤等の違法薬物使用など違法行為を行っても大変な批判を受けるが、特に世間が気分を悪くするのはスポーツ選手がそれらを行った場合だ。

スポーツ選手を応援する立場が期待していることは、選手が自分自身の力で鍛えた体で相手と正々堂々と勝負することだ。そんなスポーツマンシップにあふれるはずの選手が違法行為に手を染めることは競技そのものの価値が損なわれたように観戦者は感じてしまう。特に人気があったり、期待をされているスポーツ選手たちに対しては特に世間は手厳しい。また、トラウマにもなってしまう。一度フェアではない行為を見てしまったらその競技を見るたびにかつて行われた違法行為がちらついてしまう。選手達は自分だけではなくその競技自体の価値も落とすようなことは絶対にしてはいけないのだ。

だが、違法行為というものを離れて考えてみた時に、どうやら私たちは、スポーツ選手がピュアでフェアな行為をひたすら目指していると思いきみたくところがあるようだ。彼らのことを本当にストイックな、どこか神のように見てしまっているのではないだろうか。

(業)

バレーボール部

スパイクを打つ川角選手（1年）



男子バレーボール部は、今年も見事優勝を果たした。決勝戦の松江工業との試合でも2セットとも取り、圧倒的な強さを見せた。しぶといレシーブが相手のミスを誘い、これが勝利へと繋がった。キャプテンの井山創太さん（3年）は「2年連続優勝出来て良かった。新人戦はやっぱりいい感じでギリギリの状態だったが、いざというときに勝てた」と話した。（愛）

今回は余裕があったから、全員色々なことを試すことが出来、よかった。全国ベスト8を目標にして練習しているから、その結果を出せるようにインターハイも頑張りたい」と話し、監督の井山先生は「今回の試合は動きが堅い場面などがあったが、経験を積んでいくことで、良くなっていくだろう」と話した。（愛）

水泳

2種目で中国大会へ羽ばたく

6月4日、県立水泳プール



表彰台に上る角選手（左）

50M自由形とバタフライ100Mでも第2位になった角俊介さん（1年）は、「自己ベストを出せるように大会に臨んだ。中国大会ではスタートを頑張りたい」と話した。（友）

陸上部

和田大祐選手（3年）

やり投げ第2位 中国大会へ
5月27、29日、松江市営陸上競技場



満面の笑顔 和田選手（左）

800Mの高橋昂大選手（3年）は準決勝でもう一人分上回るタイムを出せば決勝進出という惜しい結果であった。また、高校に入ってからやり投げを始めた和田大祐選手は53Mの好記録を出し、6月18日に行われる中国大会への出場を決めた。今回の結果について和田選手は「1位になった選手はかなり体格が良いが、今から自分が体格をよくすることはできないので、初心忘るべからず」で、基礎を大切に中国大会本番までの練習に臨みたい」と謙虚な気持ちで語った。

硬式テニス部

悔しさを次につなげる

6月2日 松江・市営庭球場

団体戦では、男子が二回戦で大田高校と、女子は一回戦で出雲高校と戦い、惜しくも敗退した。男子キャプテンの本田琉真さん（3年）は試合を振り返り「落ち着いて普段のプレーができた。周りの応援のおかげでミスに気をこせず

楽しい雰囲気です試合をするのができた」と語った。男子監督の中西正実先生は「普段の力の全てが出ていた。団体戦は全員出ることができないが、出ている人は出られない人の分も頑張ってくれた」と語った。女子キャプテンの西田愛実さん（3年）は「とても悔しい。緊張で足が動きにくくなるため、足を動かすことと、今までしてきた練習を意識してプレーした」と語った。女子監督の吉村将先生は「結果は残念だったが、納得して部活を終えることができたら部活をしてきたことに意味がある。それを次につなげるのが大切だ」と語った。（葉）

卓球部

一球一球を大切に

6月2～4日 益田市民体育館



息を合わせてダブルスに取り組む中西・田邊組

男子団体一回戦 安来 2-3 平田
キャプテンの田邊優磨さん（3年）は試合前に「緊張し

ている。相手の力を見極めずぎないようにして調子を持っていかれないようにしたい」と述べた。平田高校に惜敗した試合終了後には「チームとして一人一人が頑張っていたと思う。応援の声も出せたので良かった。試合ではもう少し駆け引きをしたかった。試合ではいつもよりも相手を攻めることができた。ラリーを続けることでモチベーションを高めることができた」と語った。顧問の野津正樹先生は「試合での基本の戦術を教えようにはできる様に指導していきたい」と語った。（業）

ソフトボール部

6月4~5日、大社高校

男女とも強豪 三刀屋高校相手に奮闘

投球をする田邊万喜子ピッチャー



女子1回戦、安来高校は初戦で三刀屋高校とあたり0・28(5回コールド)で敗れた。また、男子も三刀屋高校とあたり2・9(5回コールド)で敗戦した。三刀屋高校は、男女共に今年の優勝校となった。

女子主将の田邊万喜子さん(3年)は、「強い相手との試合だったけれど、ベンチや応援席などで懸命に応援してくれて嬉しかった」と涙を浮かべながら話した。女子顧問の長島いつか先生は、今回の試合を振り返り「もつ

と声をかけあう雰囲気を作ってほしかったが、練習試合や公式戦を10試合もしていない中で良く頑張ってくれた」と話した。

男子顧問の小林努先生は「チャンスを生かし切れなかった。だが、3年生は粘り強く、諦めなくなり成長を感じた」と語った。主将の藤原大河さん(3年)は、「僕達が引退し部員が6名になってしまいうので、部員を増やして、大会に出場してほしい」と精悍な顔つきで話した。

(真)

自分に負けないフリース 女子個人Wで中国大会へ



正確に打ち返す田中 日菜実選手

団体戦は男女ともに一回戦で敗退。だが、女子の個人戦では矢田陽菜(3年)・石田沙妃(2年)・ペアがベスト16、田中日菜実・佐々木楓(3年)・ペアがベスト24という結果を残し、中国大会進出を果たした。田中さんは、「自分からミスをしたように心掛けた。中国大会では自分に負けないように攻めるプレーをしていきたい」と話した。また、コーチの吉村憲治さんは、「基本的に忠実なテニスができていた。次の試合は

3年生にとっては本当に最後の試合になるから、活躍してほしい」と語った。

男子は、1年生のみで挑んだ総体だった。監督の岡屋哲朗先生は、「全員が守りではなく攻めていけてよかったが、まだラケットを最後まで振るなどの課題があるので直していきたい」と語り、キャプテンの後藤大輝さん(1年)は、「サーブレシーブがまだきちんとできていないので、できるよりにしていきたい」と悔しそうに話した。

(友)

ソフトテニス部

6月25日
浜山公園テニスコート

バスケットボール部

自分たちのフリースを最大限発揮

6月25日、カミアリーナ 大社高校

男子

57-66大東高

女子

54-58浜田高

男子は士気が高く盛り上がった雰囲気練習してきたが、試合では気持ち

ちの強さで相手高校に及ばなかったことが敗因となったと廣江良太キャプテン(3年)は振り返った。また、1・2年生へは日々の練習に打ち込み、明るく厳しくやってほしいと語った。

いける力をつけていきたい。」と熱く語った。女子は試合は終始力加減が拮抗した接戦だった。増本光キャプテン(3年)は「結果は残念だが楽しんで試合に臨めてよかった。バスケットを通して明るくなれたたたくさんのことを学べた」と爽やかに語った。また増本キャプテンの父は「バスケットを通して成功と挫折の中で人間として成長したと思う。キャプテンとしても責任を持ちここまで頑張ってくれた」と語った。監督の中村宏子先生は「悔しかった。『ここ』という時のミスにより負けてしまったが、明徹真輝のもと全員で戦えた。二人の3年生がチームを引っ張ってくれたことに感謝している」と悔しさをかみしめながら話した。



切り抜ける増本光さん(3年)

「両校に力の差はなかったが試合では小さなことの積み重ねが勝敗を決めた。選手たちは以前とは顔つきや態度も変わり粘り強くなった。今後は公式戦で勝つた。

(柚)

響きわたるきれいな音色



美しいハーモニーを奏でる弦楽部

弦楽部定期演奏会

(6月12日安来中央交流センター)

演奏会では9曲演奏し、後半からは1年生も加わり計10人できれいな音色を響かせた。木下結以部長(3年)は「やりきった。すごく楽しんで演奏できた。1・2年生はこれから一丸となってパワフルに頑張っていきたい」と晴れ晴れとした表情で話した。

(友)

誰もが当たり前に参加出来る選挙を! 18歳も投票

安来市選挙管理委員会を取材

自分たちの未来を自分たちで決めるために

今月19日より公職選挙法等の一部を改正する法律が施行され満18歳以上満20歳未満の人が選挙に参加できるようになった。今回我々は安来市選挙管理委員会委員長の佐伯邦彦さん(76)と主幹の田中正樹さん(40)に話を伺った。また、模擬投票を体験した。



投票箱に投票用紙を入れる新聞部員

細やかな配慮

島根県には6月2日現在約57万3千5百人の有権者がおり今回の改定により新たに約1万3千人の増加が見込まれる。選挙管理委員会は選挙の管理・執行のほか有権者や候補者、投票所のスタッフなどすべての人が安心して活

動できるように様々な取り組みをしている。投票所の設営に関しては、他のイベントと選挙日が重ならないように調節したり、車いす利用者や高齢者も安心して投票所へ行けるようなスロープや少し低めの記載台を設けたりと細やかな配慮が見られる。加えて、不在者投票制度を利用すれば介護施設や病院にいな

ながら投票でき、すべ

ての人が当たり前前に選挙に参加できるような考えられている。委員長の佐伯さんは「選挙はやり直しがきかないので常に100点満点が求められるのでミスがない事が当たり前前となるよう日頃から心がけている。安来市でも10月に市議会補

欠選挙と市長選挙という市民にとって身近で関心の高い選挙が行われるが責任を持って取り組んでいく」と力強く語った。

なぜ投票するのか



選挙管理委員会で話を聴く新聞部員

改正が行われた今、「選挙」というのは私達高校生にとっても決して遠い未来の話ではない。

私達の生きる未来を私達自身で作っていくために積極的に選挙に参加していくことが大切だ。また、選挙を管理する人々の「投票をして欲しい」という強い思いや、投票してもらうための細やかな配慮を知り、それに応えたいという気持ちも抱いた。

それぞれが選挙について理解を深めて他人任せにせず自分の意志を持って投票することが大切だ。(柚)

今回の総体で体育会系の部活が忙しかった。それに合わせて新聞部員も忙しかった。各場所に手分けをして試合を観戦し写真を撮りそして取材。それらをするにあたって試合への執念や勝ちたい気持ちなどを感じた。我々新聞部はそのような経験をあまりできないので各部の総体について取材をすることはとても得る物がある。是非、部活に全身全霊を尽くして練習をし素晴らしい経験を仲間と共有して欲しいと思う。(業)



模擬投票をする新聞部員

編集後記